

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（6月）

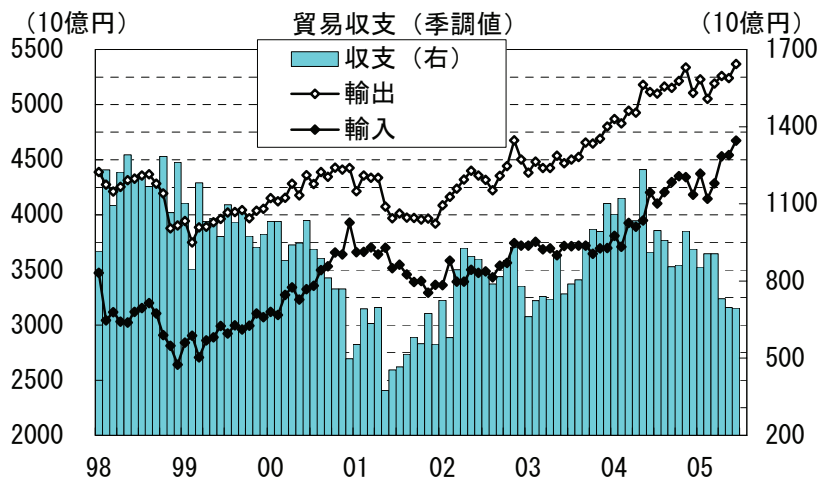
発表日：7月21日（木）

～ 兆候 ～

(No. J-69)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年6月	912	5116	4203	1141
7月	997	5101	4104	1129
8月	959	5165	4206	573
9月	856	5152	4296	1213
10月	862	5214	4352	1154
11月	994	5337	4343	597
12月	924	5107	4182	1133
05年1月	855	5229	4374	194
2月	906	5053	4146	1090
3月	906	5191	4285	1119
4月	731	5262	4531	958
5月	698	5241	4543	294
6月	694	5368	4673	873

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 1月	11.3	▲ 1.7	13.1	0.4	11.1	20.2	1.1	▲ 4.4	5.7	▲ 6.4	2.1	8.3
2月	10.2	▲ 1.6	12.1	5.9	8.7	10.2	▲ 0.8	▲ 3.6	3.0	▲ 5.2	5.2	5.3
3月	13.2	▲ 0.8	14.1	7.2	14.3	12.6	12.4	▲ 4.3	17.5	10.9	17.0	21.2
4月	10.8	▲ 2.1	13.2	4.0	6.3	14.6	6.6	▲ 3.2	10.2	▲ 1.0	4.8	11.9
5月	10.0	▲ 0.6	10.6	▲ 4.8	7.9	11.2	5.0	5.3	▲ 0.3	▲ 7.1	4.7	4.6
6月	19.4	1.3	17.9	12.3	18.8	19.3	15.5	5.1	9.9	4.3	12.2	12.4
7月	14.3	1.0	13.2	6.0	11.4	15.7	8.4	4.5	3.7	▲ 0.2	4.6	7.0
8月	10.5	▲ 0.5	11.1	5.1	7.7	11.8	18.7	4.9	13.1	23.1	6.1	14.8
9月	12.1	0.5	11.5	7.2	4.7	16.5	12.5	8.5	3.7	17.1	▲ 2.7	8.8
10月	11.7	7.0	4.3	▲ 3.7	1.2	7.9	12.7	12.1	0.6	40.7	▲ 5.4	▲ 2.2
11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲ 0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 14.6	▲ 1.5	11.4	8.7	2.5	▲ 0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲ 4.2	2.3	▲ 6.7	▲ 3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲ 3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲ 9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲ 1.2	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.8	▲ 2.5	▲ 1.9	12.8	13.4	▲ 0.6	▲ 4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲ 2.5	2.0	▲ 7.8	▲ 5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.2	0.4	2.4	▲ 9.1	▲ 0.6	11.0	9.0	1.8	▲ 0.2	▲ 2.5	5.9

## ○ 貿易黒字は3ヶ月連続二桁減

2005年6月の貿易黒字額（原数値）は8,731億円（前年比▲23.5%）と、市場予想（コンセンサス7,472億円、レンジ5,000～9,350億円）を若干上回った。もっとも、「中国向けを中心とする輸出の低迷と、原油価格上昇による輸入額の増加」という構図自体には変化はない。こうした状況には当面変化はみられないと予想されることから、貿易黒字は今後も縮小傾向で推移すると思われる。

## ○ 改善の兆しもようやく出始めたが

実質輸出（輸出額／輸出物価、季節調整は当社）は、季調済前月比+1.9%（5月同+0.9%）と増加した。来週公表される6月の鉱工業生産は予測指数からすると前月比+1.7%と増加が予想されているが、今月の輸

出の増加は、そのことをサポートする一つの材料となる。

内訳をみると、EU向けは悪化したものの、米国向け、アジア向けは前月から改善している。特にアジア向けに関しては比較的大きな改善だった。アジア向け輸出は昨年後半以降、減速傾向が顕著だったのだが、その傾向に歯止めがかかる兆しも若干見えてきたという印象だ。

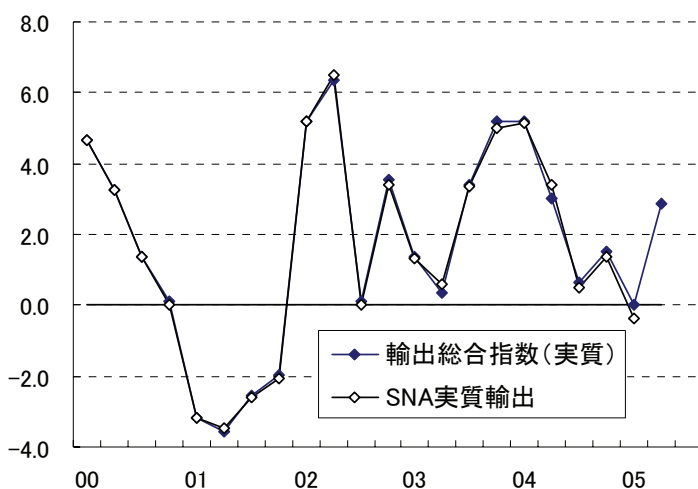
また、輸出の動向に先行する傾向のある指標をみても、OECD景気先行指数の悪化に歯止めがかかり始めたことに加え、米国ISM製造業新規受注、北米半導体製造装置BBレシオなどでは足元改善が見られる。また、依然として中国向け輸出の大きな抑制要因となっている中国での在庫調整に関しても、水準自体は依然としてかなり高いものの、方向としては在庫は減少に向かっている。このように、輸出の悪化を示唆する指標ばかりであったこれまでの状況と比べれば、輸出を取り巻く環境には改善の兆しが窺える。このことは、先行きの輸出を考える上でポジティブに捉えることが可能だ。少なくとも輸出の下ぶれ懸念は和らいできたといえるだろう。

とはいえ、輸出が足元から明確に増加基調に入ると判断するには時期尚早と思われる。前述した輸出の先行指標に関しても、5、6月の指標でようやく改善の兆しが出てきた程度に過ぎない。過去の平均的な先行期間からすると、輸出は7-9月期までは横ばい圏内で推移し、今年10-12月期頃から持ち直してくるといったシナリオが現時点では最も蓋然性が高いシナリオであると考えられる。

#### ○ 4-6月期の外需寄与度はプラスに

SNAでは、財の輸出入だけでなくサービス輸出入も加味して計算されている。これと同じ方法で計算したところ、6月の実質輸出は前月比+2.3%(5月同▲1.2%)、実質輸入は同+1.6%(5月同+1.8%)となった。この結果、4-6月期のSNAベース実質輸出は前期比+2.9%、実質輸入が同0.0%、外需寄与度は+0.4%ポイントとなる。輸出の増加は1-3月期に減少した反動の面も大きいことに加え、輸入が横ばいにとどまったことも国内景気が未だ踊り場を脱しきれていないことを反映したものであり、手放しで喜べる類のものではないが、少なくとも数字上は、4-6月期は4四半期ぶりに外需がGDPを押し上げる方向に働きそうだ。4-6月期の実質GDP成長率は、1-3月期にかなりの高成長になった反動から伸びは鈍化する可能性が高いが、外需寄与度のプラス転化などもあって、意外に底堅い動きとなる可能性があることには留意しておく必要があるだろう。

SNA実質輸出と輸出総合指数(前期比、%)



SNA実質輸出と輸入総合指数(前期比、%)

